令和4年度第３回研修　グループワーク記録

今回の研修の新型コロナ感染対策についてやコロナにおける事業所の取り組みについてなど、自由に話し合ってみましょう。

グループA

・マスクをしていれば大丈夫と思っていたが、濃厚接触者にもなり得ることがわかり、注意が必要と感じた。 慣れと共に手洗いも簡単になっていた。 しっかりと手洗いもしていきたい。
・目からの感染もあるためメガネやフェイスシールドが必要であることがわかり、 今後対応していきたいと思う。メガネ･フェイスシールドは1日同じものでOK。

・施設内に持ち込まないように、 再度意識して感染対策をとっていきたい。

・濃厚接触者の定義について再確認していきたい。 1日1回の掃除も必要性を再確認した。

・暑さもあり換気が十分にできていない。 感染予防のため換気にも注意していきたい。

・手指消毒もこまめに行うことが必要であることを再確認。 接客ごとに実施していきたい

グループB

・第6波までは対岸の火事のようだったが、第7波はすぐそばにある危機。 利用者で入院までいく方もいればそうでない方もいる。 家族がいてみてくれるケースはまだ良いが、コロナ感染以外で発熱のある人に対しての対応が難しく困っている。
そのようなケースはないか?
⇒肺炎を繰り返すケースがあり、発熱するとサービスが止まってしまい調整が大変。

・小学生の娘さんがいて、隣に住む祖母が昨日 PCR を行ったケースあり。 結果が出ないと 陽性だとは思わない。この仕事をしていると意識しているが世間にはそうでない人もいて ・・・。 HH、訪看ストップし家族全員コロナ感染等あった。 今のところ何とかなっているが。
・独居のケースが大変。
・ケアマネ訪問時の取り組みは?
⇒訪問時間を少なく、なるべく横並びで応対している。
　書類は郵送、 ポストイン、 電話で対応している。

極力距離を置き、公用車も消毒している。

・通常訪問しているが、これからどうしようか?

・まずは自分を守ることが大事、居宅事業所内でももう2年近く、一日数回の消毒をしている。ご利用者もそうだが、 自分でできる対策をしていくことが必要。

グループC

・とても勉強になった。

・各事業所により対応が違って良いことも参考になった。 ・フェースシールド又はアイシールド、サージカルマスク、手指消毒で自分がしないことが大切なことが分かった。
・モニタリング等は現在どのようにしているか?
⇒感染対策としてマスクにフェースシールドを付けて伺う。

電話でモニタリングしたり、玄関先や屋外でお話を聞く対応をしている。

訪問を止めてしまうと状況の把握ができなくなるので、本人・家族の意向を尊重して 訪問 (手指消毒・距離を置く・玄関先で短時間・窓を開ける筆記用具の消毒等) 注意し伺う。
事前に電話を入れて本人・家族の体調確認して訪問 し、玄関先で短時間、 手指消
アイシールド又はフェースシールド・マスク・体温計を持参。自分も利用者・家族も検温する。

グループD

・自分自身コロナウイルスにかかった時には感染者が多くなっていたこともあり、保健所との対応がしずらくなっていた。 不安になることもあったが職場との連絡体制が整っており、連絡は取れていたので安心できた。

・コロナウィルスが流行して3年が経ったが、その株は変化しており、その都度対応方法が変わってきました。現在も新しいタイプのウィルスも流行ってきており、毎回どのように対応するべきなのか迷います。

・感染予防のために訪問時間の短縮やマスクを利用者様にもしていただくなど今まで経験したことのない対応をすることとなっています。 なるべく電話で対応していますが、どうしても訪問しなくてはいけない時には防護服を着用し訪問したこともあります。今まで2回程ありました。

・利用者様や利用者様家族がコロナ陽性になることがあり、その時にはよく抗原検査をしていました。 厚労省の情報収集が不十分な時があり、重要性を感じました。 また、今回の研修で目を守る事が大切と感じました。

・訪問看護ですが、毎回訪問時にはアイシールドを付けています。 事業所内で感染し営業できなかった時には他に代替え案を提案できずご迷惑をかけてしまいました。それ以外にもどうしたらいいかと迷うことが多いです。

・1つの居宅介護支援事業所でも全員が感染しないように職員を2分して仕事にあたっています。

グループE

・コロナ感染は緩和されてきたように感じていた。まだまだ感染症対策が必要だと感じた。

・まだまだ大変な状況で中々収束できないが、その中でケアマネ業務をしていくには、やはり感染症対策の徹底が必要と感じた。 自分が、無症状のまま感染させてしまうリスクもあり、感染症の怖さを感じた。
・マスクの着用方法とシールドを併用して、「もらわない感染させない」ことを徹底していきたい。

・今日学んだ情報を利用者と家族にも伝えていきたい。 特に感染のしくみや家庭でできる消毒方法 ごみの廃棄方法など、すぐに活用できる情報を伝えていきたい。

・デイサービス等で感染者が出てしまった場合、 抗原検査をして陰性ならデイサービスを利用してもよいと言われることがあるが、それでいいのか不安に感じる。 抗原キットについても種類や精度に違いがあると知った。

・ 症状の出方や出る日数の具体的な目安が分かった。 担当する利用者さんや、同僚や家族にも伝えていき、コロナ感染拡大防止を図りたい。
・感染が再拡大しているが、利用票の配布や新規サービス開始時の担当者会議等、 他事業所のケアマネはどのように対応しているか教えていただきたい。

⇒優先順位を決めて訪問している。 必ず訪問する必要がある利用者には、感染対策をした上で訪問する。 郵送やポストインで対応できる方には、電話でのモニタリングを実施し、 来月のサービス予定について説明するなどして、 人と接触する機会を減らしている。
独居の方は必ず訪問するようにしている。
サービス担当者会議については、参加人数を減らして開催している。

グループF

・毎日の体調管理はしている。 体調不調時は抗原検査をしている。

・訪問時には消毒を徹底している。

・事業所は時々窓を開けるなど起に気を付けている。

・来所者には体温測定をしてもらい注意している。訪問時には耳からのシールドも利用している。 玄関での訪問も多くなっている。

・机は全員、同じ方向を見ており間隔を開けている。 前面にはパーテーションを置いている。

・毎朝のバイタルチェックはいつもしている。

・利用者の訪問は短時間にしている。

・抗原検査を各自持っていて、調子をみて検査している。

・自分の休みの日の行動記録もとっている。

・支援センターでは1日3回の消毒の時間をもち、エアコンを付けながら換気もしている。 来所者には手指の消毒と検温、体調に関する申告をしていただき、相談後には椅子・テーブルの消毒を行っている

・職員同士 相談者は向き合って座るが、パーテーションを挟んでいる。

グループG

・利用者全員にマスクを着用してもらいアクリル板で仕切りを作っている。食事介助、口腔ケアにはスタッフはフェイスシールドを使用している。これまで2度、利用者や職員に陽性者が出てその度に1週間サービスを休止した。 今は陽性者や濃厚接触者が出た場合、感染リスクのある方を対象に検査を実施し全面休業まではしていない。

・併設のデイで先週陽性者が出た。小規模型のデイなので全利用者、全職員に検査実施し陰性確認し、サービスを止めずに済んだ。土曜日に陽性者が分かった為、保健所も磐田市も話は繋がらず、県の介護指導課に報告と相談を行った。 その際にも安易にサービスを休止せず感染拡大予防策を講じた上でサービス継続する事が望ましいと指導を受けた。

・併設の病院から感染予防マニュアルは細かく指導があるので守っている。利用者宅訪問前には電話で相手の体調確認を行った上で短時間に限って訪問している。訪問を望まない方は電話でのモニタリングや郵送での書類のやり取りをさせてもらっている。

・併設の特養施設で利用者陽性1名出ており、対応している。同建物のいきいきデイは休止、別建物のデイ、ヘルパー、居宅は通常営業している。利用者宅への訪問は今のところ電話連絡の上で訪問しているが、他居宅の現状がどうか知りたい。

⇒一国から行動制限等が出ている状況ではないので通常通りサ担の実施、モニタリング訪問 実施している (2事業所)、

活発な意見交換、ありがとうございました。